

倉庫業における起因物なしを起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	9～10	ハンドフォークを使用して空パレットを、E・Vに積み込んだ後、残りのパレットを取りに行こうとした。ハンドフォークを後ろ手に持って歩行中に、自分自身の足がもつれ、その拍子に転倒し、左膝部を地面に強打した。周りに障害物もなく、通路幅も確保されていた為、本人の注意不足が原因と思われる。	51～29	10～29
5	14～15	日用品、雑貨を店舗ごとに仕分ける場所で、殺虫スプレーの仕分けを行っていた。殺虫スプレーの入ったダンボールを開梱する際、ダンボールの糊付けが強く、無理矢理手で開け、右手首を痛めた。	21～299	100～299
6	15～16	作業場で商品の梱包作業中、オリコン（折り畳みコンテナ）を広げて振り返った際、バランスを崩し左手をオリコン内について転倒した。作業を継続しようとしたが、違和感があり、次第に力が入らなくなっていった。	52～299	100～299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html